

阿蘇地域振興デザインセンター中期計画 目次

平成24年3月策定

はじめに. デザインセンターの歩みと事業内容

はじめにー1 これまでの歩み

はじめにー2 事業内容

序 章 デザインセンターへの地域からの期待

第一章 中期計画の基本方針

1ー1 デザインセンターの役割

1ー2 向こう5年間の中期計画において重点的に取り組むべき課題

1ー3 新しい中期計画の構成

第二章 事業計画

2ー1 豊かな自然による世界ブランドの確立 ～阿蘇草原の維持・再生～

2ー2 地域の元気再生による地域力向上

2ー3 広域連携による競争力のある観光地づくり

<別添資料>

基礎資料1 : デザインセンターの活動履歴

基礎資料2 : デザインセンターの年次別事業実績 (H18～H22)

財団法人 阿蘇地域振興デザインセンター

はじめに

デザインセンターの歩みと事業内容

はじめに—1 これまでの歩み

はじめに—2 事業内容

平成2年の発足から今日までの履歴をふり返り、デザインセンターが「地域づくり」「観光振興」「環境・景観保全」に関する事業に取り組むシンクタンクとして活動する機関であることを再確認しています。

はじめにー1 これまでの歩み

阿蘇地域の環境・景観資源の価値に着目し、守り活用することを目的として出発した阿蘇地域振興デザインセンター（以下略記DC）は、地域づくりに向けた観光の推進へと役割を拡充し、それに取り組む人と地域を支援する役割を担ってきました。

デザインセンターの履歴

平成2年5月

熊本県と阿蘇郡12か町村の出資によって「阿蘇環境デザインセンター」が設立される

平成5年度～

熊本県策定の「阿蘇国際高原リゾート基地整備構想」を受け、観光・リゾートに積極的に取り組む

平成8年度～

広域的な地域振興、観光振興機能を併せ持つ「阿蘇ビューロー」が構想され、平成10年度より「阿蘇地域振興デザインセンター」に改組拡充

平成13年度～

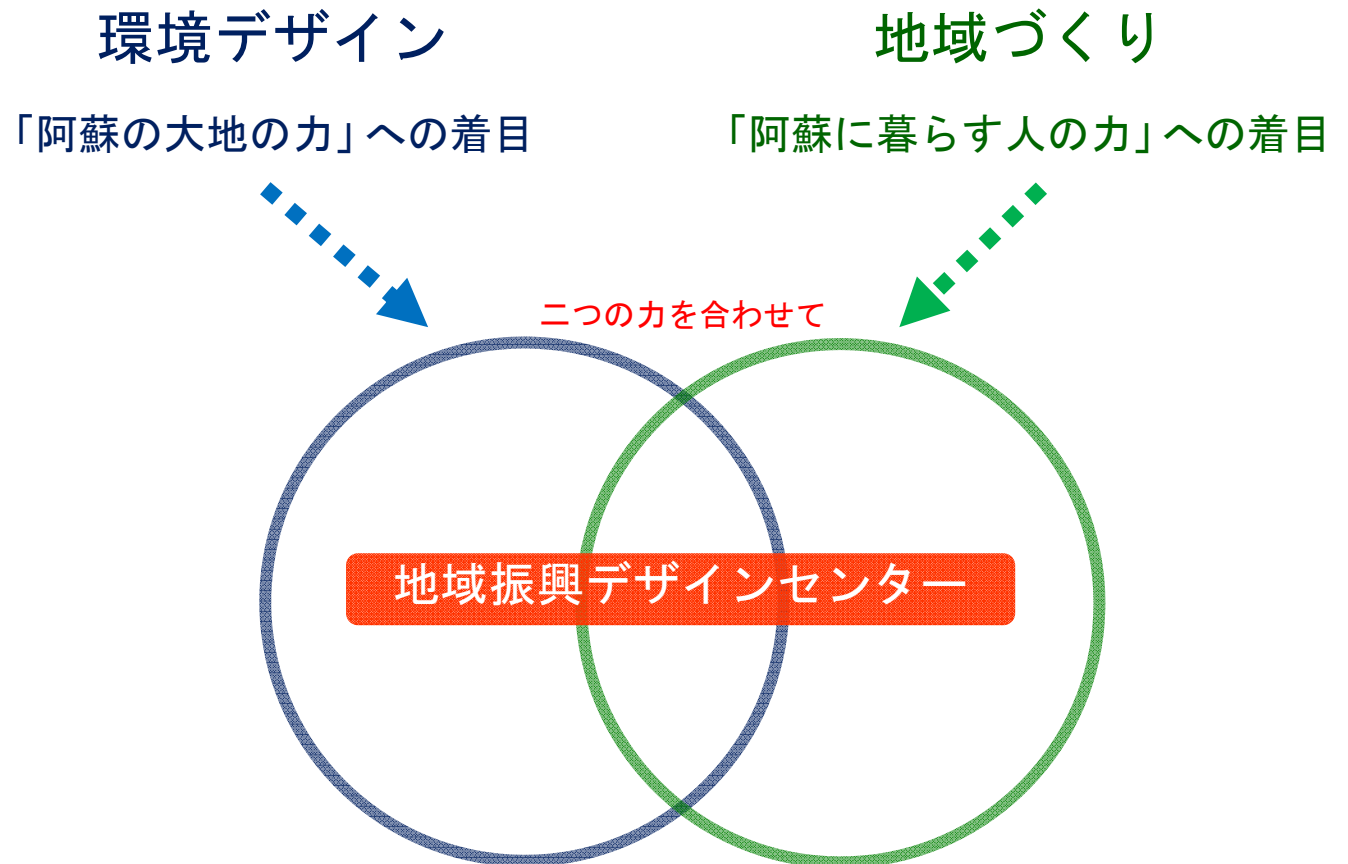
「阿蘇地域振興策」を策定し行政と民間の協働による事業を推進する

平成14年度～

「スローな阿蘇づくり・阿蘇カルデラツーリズム」にこれまでの諸事業を統合し、事業運営の事務局機能を高めていく

平成19年度～

九州新幹線全線開通に合わせたツーリズム博（「ゆるっと博」）開催、世界文化遺産及びジオパーク登録を目指す



はじめにー2 事業内容

DCは、環境・景観保全、地域づくり、観光振興を図りながら取り組むシンクタンクです。中期計画や各年度ごとの事業計画は、時代の潮流や地域の課題に対応しながら組み立てています。

地域づくりに関する事業：

「阿蘇地域振興計画*1」を基本とするものです

環境・景観に関する事業：

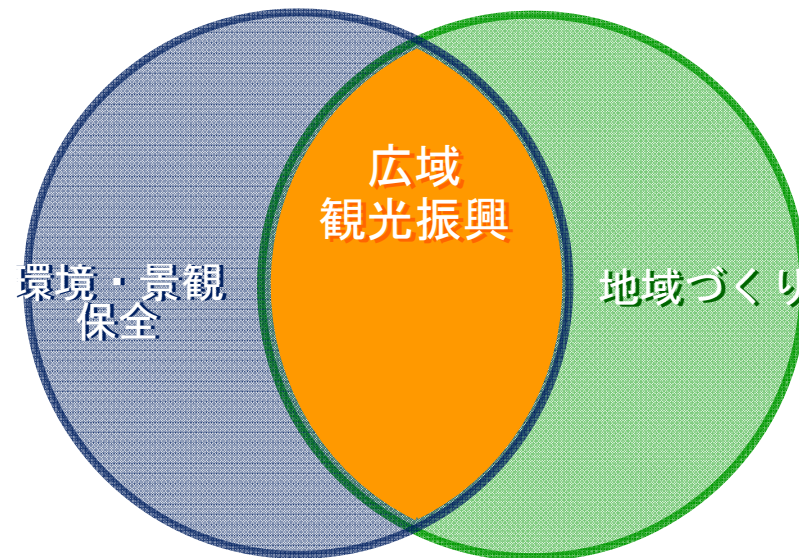
「阿蘇ランドデザイン*2」を基本とするものです

広域観光振興に関する事業：

「阿蘇カルデラツーリズム*3」に関連するものです

DCが取り組む事業は、下図に示すように個別にはなくすべてが相互に関連し、「阿蘇という地域の魅力を高める」という目標に向けて、相乗効果を引き出しながら進めていくものです。

いずれも長期持続性が不可欠な事業であるため、DCは地域に根差したシンクタンクとして常に阿蘇地域全体を視野に入れて事業を展開していきます。



- *1：平成3年度策定
- *2：平成12年度策定
- *3：平成14年度スタート

序 章

デザインセンターへの地域からの期待

平成24年度から向こう5年間の中期計画の基本的な方向を検討するために実施した各市町村（首長を含む）からのヒアリング及び意向調査の結果を整理しています。

中期計画策定に先立って：これまでの事業を検証し、 DC に期待されていることについて整理しました（ヒヤリング及び意向調査より）

1. これまでの事業の検証

DC が近年取り組んできた事業の成果と課題は右のように整理されます。

【事業成果】

- ・ワークショップ等による地域づくり、経済活動の活性化
- ・地域づくり型観光（地域振興＋観光振興）による新しい観光スタイルの提案と受け皿作りの進展
- ・回遊交通体系づくりによる滞在型の観光の確立
- ・九州中央の観光圏導入による広域交流の創出
- ・阿蘇ジオパークの日本ジオパークネットワークへの加盟認定

【主要課題】

- ・地域づくり型観光の取り組みの一層の充実（パビリオン拡大とメンテナンス）
- ・九州中央部の広域連携及び九州各県との連携
- ・世界ジオパーク認定に向けた取り組み（サイン設置・活用と維持活動の継続）
- ・公益法人制度改革による組織強化

2. デザインセンターへの期待

市町村からのヒヤリング及び意向調査の結果からは、今後の DC の活動に対して右のような期待の声と、DC の取り組みと密接に関係すると考えられる地域の動向が挙げられています。

【市町村が期待するもの】

- ① 環境・景観の保全
 - ・ジオパーク世界認定による世界ブランド確立
 - ・里山環境・景観の維持（保全）
 - ・歴史・文化的地域資源の継承・保護
 - ・遊休農地の解消による後継者や担い手の育成
- ② 地域コミュニティの維持
 - ・地域住民の主体による地域づくり
 - ・空き店舗の活用等による賑わいのある商店街づくり
 - ・地域を支える人材の育成、定住人口の確保
- ③ 観光振興
 - ・持続可能なツーリズムの推進
 - ・交通機関の整備による観光客増加
 - ・特産品のブランド確立

【地域における主な動き】

- ① 交通基盤整備の進展による交流人口の拡大
 - ・九州新幹線の全線開通（H23.3）
 - ・観光特急列車「あそぼーい！」の運行（H23.6）
- ② 阿蘇草原再生の機運の高まり
 - ・阿蘇草原再生専念委員会の設立（H22.10）
 - ・阿蘇草原再生募金の開始（H22.11）
- ③ 世界ジオパークへの取り組み
 - ・日本ジオパーク認定（H21.10）
 - ・世界ジオパーク申請（H22.4）*
 - ・*事前審査落選（H22.9）
- ④ 環境・景観保全への取り組み
 - ・阿蘇環境デザインの策定（H23～）

第一章

中期計画の基本方針

1—1 デザインセンターの役割

1—2 向こう5年間の中期計画において 重点的に取り組むべき課題

1—3 新しい中期計画の構成

DCは、設立後20年を経過し、これまでの事業を発展的に継承すると共に、これらの事業への取り組みを通じて、蓄積してきた広域的なネットワーク力を活かしながら、阿蘇のもつ大切な地域資源である「阿蘇草原の再生・維持」を中心とした環境の保全活用に力を入れて取り組み、競争力のある地域づくりを目指していきます。

これからの阿蘇デザインセンターが担う役割は次の①～③にまとめられます。

- ①草原の維持再生、ジオパーク世界認定、
世界文化遺産登録、景観整備、
歴史・文化的地域資源の継承・活用等
- ②地域資源を生かしたコミュニティづくりの取り組み、
地域ブランド商品の開発、地域のリーダー育成等
- ③地域づくり型観光の取り組み、
九州中央部の広域連携及び九州各県との広域連携、
東アジアなどの海外からの誘客等

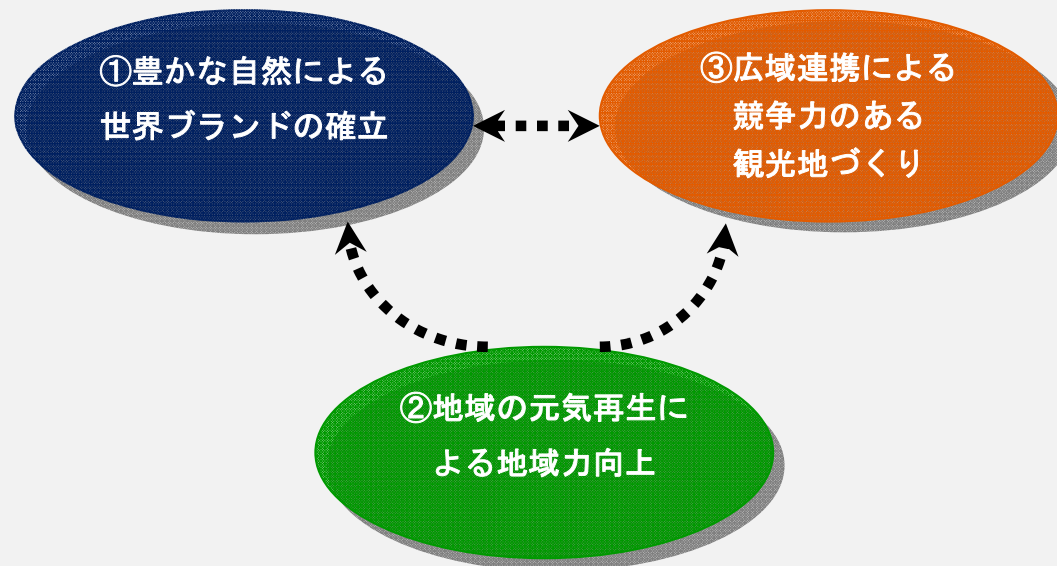


図.これからの阿蘇デザインセンターが担う役割

①、②、③は互いに連携しており、各々の取り組みの相乗効果を高めるためには広域的な視点が不可欠です。

DCはこれまで、市町村との連携のもとに集落や商店街などの活動を支援し連携を促す事業を導入するなど広域活動の推進母体としての役割を果たしてきました。

具体的には「スローな阿蘇づくり」をスローガンとする「地域づくり型観光」であり、地域の生業（産業と暮らし）の基盤である環境・景観資源を生かした「ジオパーク世界認定」や「世界文化遺産登録」を目指す動きです。つまり、DCは、阿蘇という大きなまとまりを強化しながら、阿蘇で結ばれ世界に広がる広域圏をつなぐ役割が期待されているということが出来ます。

新しい中期計画では、地域の期待と地域動向・時代潮流に沿って以下のように重点課題をまとめ、事業を組み立てていきます。

【新中期計画の重点課題】

DCの向こう5年間の中期計画においては、DCに期待されている「広域的な推進機能」を十分に発揮し、

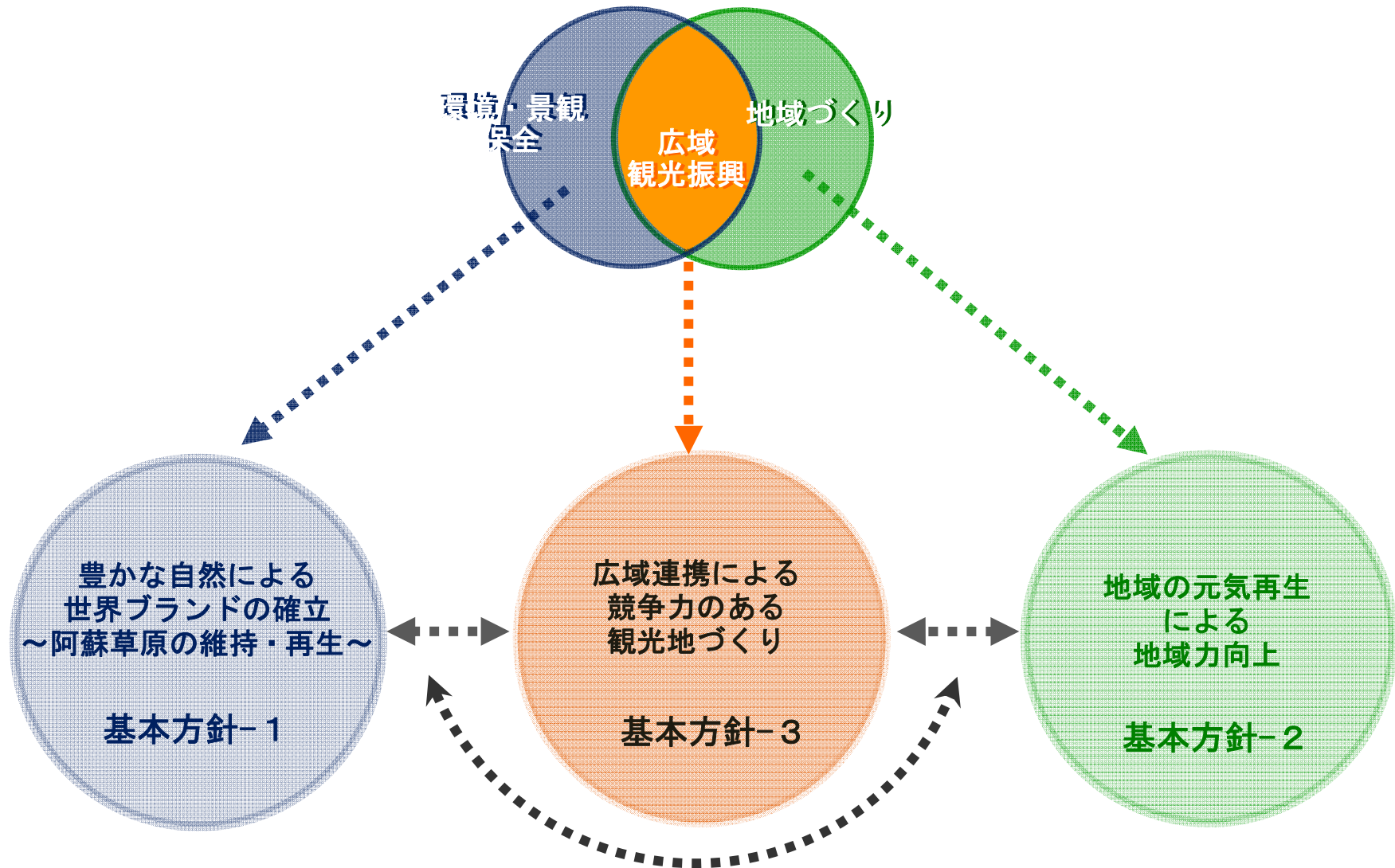
- ①「豊かな自然による世界ブランドの確立」に向けた事業
- ②「地域の元気再生による地域力向上」に向けた事業
- ③「広域連携による競争力のある観光地づくり」に向けた事業

を組み立て推進していくことが重点課題といえることができると思われま。

特に①については、積年の課題であり近年気運の高まってきている「阿蘇草原の維持・再生」が中期計画の核であり、草原の保全・活用を通して、ジオパークの世界認定や世界文化遺産の取り組みを有機的につなぐ役割をDCが果たせるようにしていくことが重要となっています。

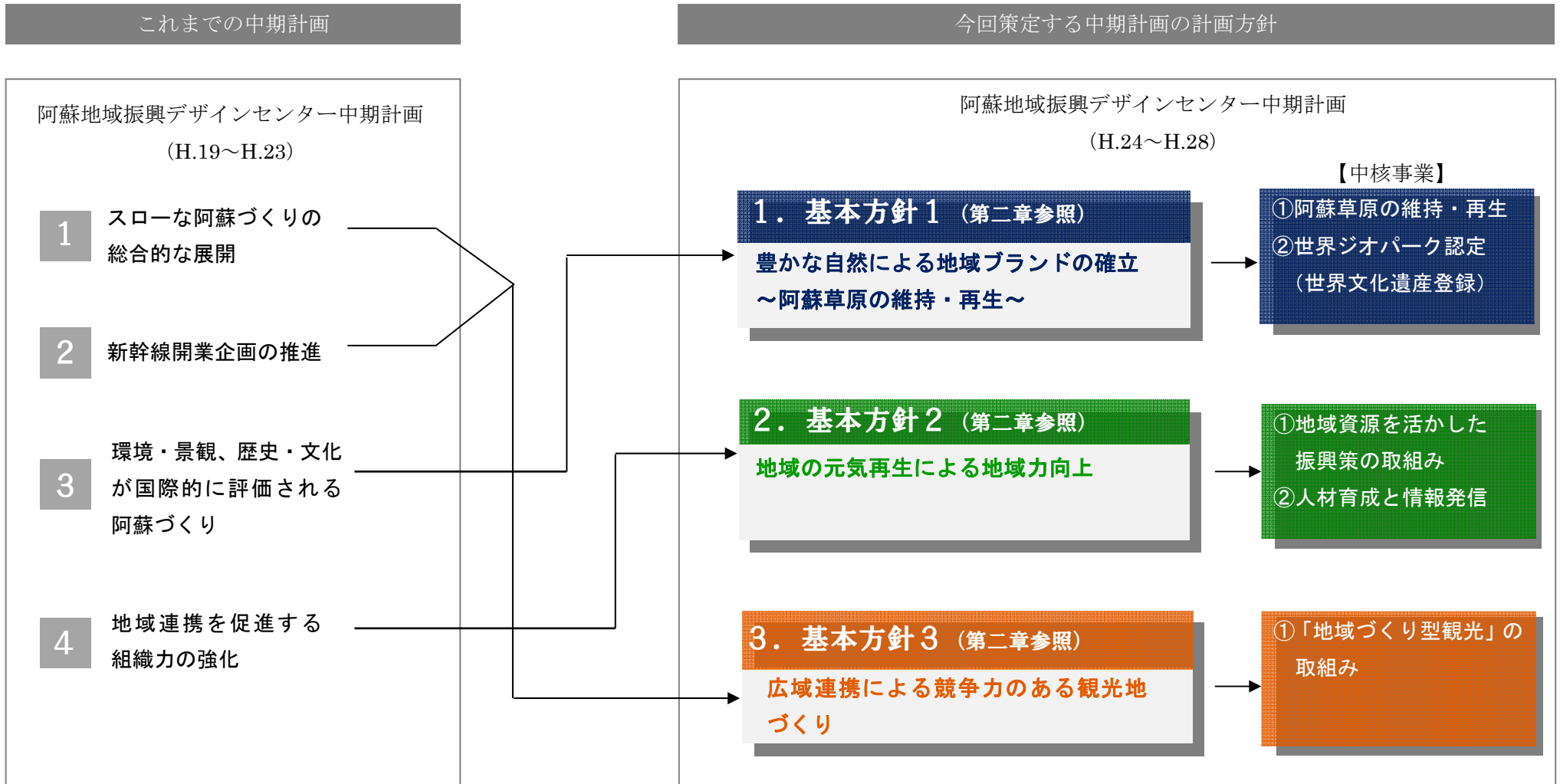
また、②については、過疎化や地域経済の低迷などにより、地域の活力が低下してきており地域資源を活かした地域コミュニティビジネスの支援や人材育成、地域力向上に向けた取り組みの充実が必要となっています。

③については、現在進行中の「ゆるっと博」の成果である地域づくり型観光を推進するため、各地域の取り組み支援の継続と、九州中央部の広域連携及び九州各県さらには東アジアとの連携に向けた活動の展開が求められています。



参考資料（１） 現行中期計画と新しい中期計画との関係

これまでの実績と前中期計画を継承して3つの方針を設定します



参考資料（２）

平成 23 年度事業は、今回策定する中期計画の事業と下図のように対応しています。

平成 23 年度事業

7－（１）環境・景観の保全等への取り組み

7－（２）阿蘇ジオパーク推進協議会

2－（１）情報誌の作成

2－（２）ホームページの管理・運営

2－（３）ラジオ番組の放送

2－（４）メディアとの連携

3－（１）阿蘇人塾の開催

3－（２）研修事業

6 DVD、ポスター、ガイドブック等の販売事業

5－（１）阿蘇ナビ・プロジェクト推進協議会

1－（１）阿蘇ゆるっと博の開催

1－（２）阿蘇カルデラツーリズムの開催

1－（３）関係諸団体との連携

1－（４）回遊の交通体系づくり

1－（５）阿蘇地域づくり支援事業

1－（６）阿蘇くじゅうデザイン会議

5－（３）阿蘇そばの里づくり推進協議会

今回策定する中期計画の事業構成

1 中核事業－１

- ・ 草原の維持・再生
- ・ 阿蘇ジオパーク世界認定

2 中核事業－２

- ・ 地域資源を活かした
振興策の取り組み
- ・ 人材育成と情報発信

3 中核事業－３

- ・ 「地域づくり型観光」の取り組み

参考資料（3）

各市町村から寄せられた意見と今回策定する中期計画の行動指針との関係

各市町村から寄せられた事業提案

- ・阿蘇ジオパーク活動の推進（阿蘇市、産山村）
- ・「農村環境・緑の景観」対策補助事業（産山村）
- ・「地域ぐるみの有害鳥獣対策と猪・シカ肉有効活用」事業（産山村）
- ・自然環境保全景観形成整備事業（南阿蘇村）
- ・「里山風景再生」活動事業（産山村）

・阿蘇地域トレッキングルート情報の整備・発信事業（南阿蘇村）

・「高森田楽連絡協議会」活動事業（高森町）

・滞在交流型観光の推進（阿蘇市）

・特産品の販売促進事業（高森町）

・（カゲラ）ツーリズム推進事業（高森町、産山村）

・「阿蘇の野菜朝市場」開催事業（産山村）

・広域観光機能の確立（阿蘇市）

・高森商店街活性化事業（高森町）

・熊本～小国郷直通観光バス運行事業（南小国町）

・「阿蘇イルミネーション」事業（産山村）

・阿蘇くまもと空港を起点とした事業（山都町、西原村）

・「地域づくり活動・事業」への助成（南阿蘇村）

・ぐるっと南阿蘇（南阿蘇魅力回廊）事業（西原村）

・阿蘇坊中から小国町への交通アクセスの向上（小国町）

今回策定する中期計画の事業構成

- 1 中核事業－1
- ・草原の維持・再生
 - ・阿蘇ジオパーク世界認定

- 2 中核事業－2
- ・地域資源を活かした振興策の取組み
 - ・人材育成と情報発信

- 3 中核事業－3
- ・「地域づくり型観光」の取組み

第二章

事業計画

2—1 豊かな自然による世界ブランドの確立
～阿蘇草原の維持・再生～

2—2 地域の元気再生による地域力向上

2—3 広域連携による競争力のある観光地づくり

中核事業として位置づけた「豊かな自然による世界ブランドの確立～阿蘇草原の維持・再生～」、「広域連携による競争力のある観光地づくり」、「地域の元気再生による地域力向上」のそれぞれについてその内容を以下の2項目で詳述しています。

- 1) 事業の基本的な意義（背景と理念）
- 2) 課題と目標に対応した事業計画（年次計画）

2-1 (基本方針-1)

「豊かな自然による世界ブランドの確立 ～阿蘇草原の維持・再生～」 事業の基本的な意義（背景と理念）

第二章 事業計画

内的変化への対応：

阿蘇草原千年委員会の設立（H22. 10）や阿蘇草原再生募金の開始（H22. 11）等により、阿蘇の草原を維持・再生する機運が高まっています。

外的変化への対応：

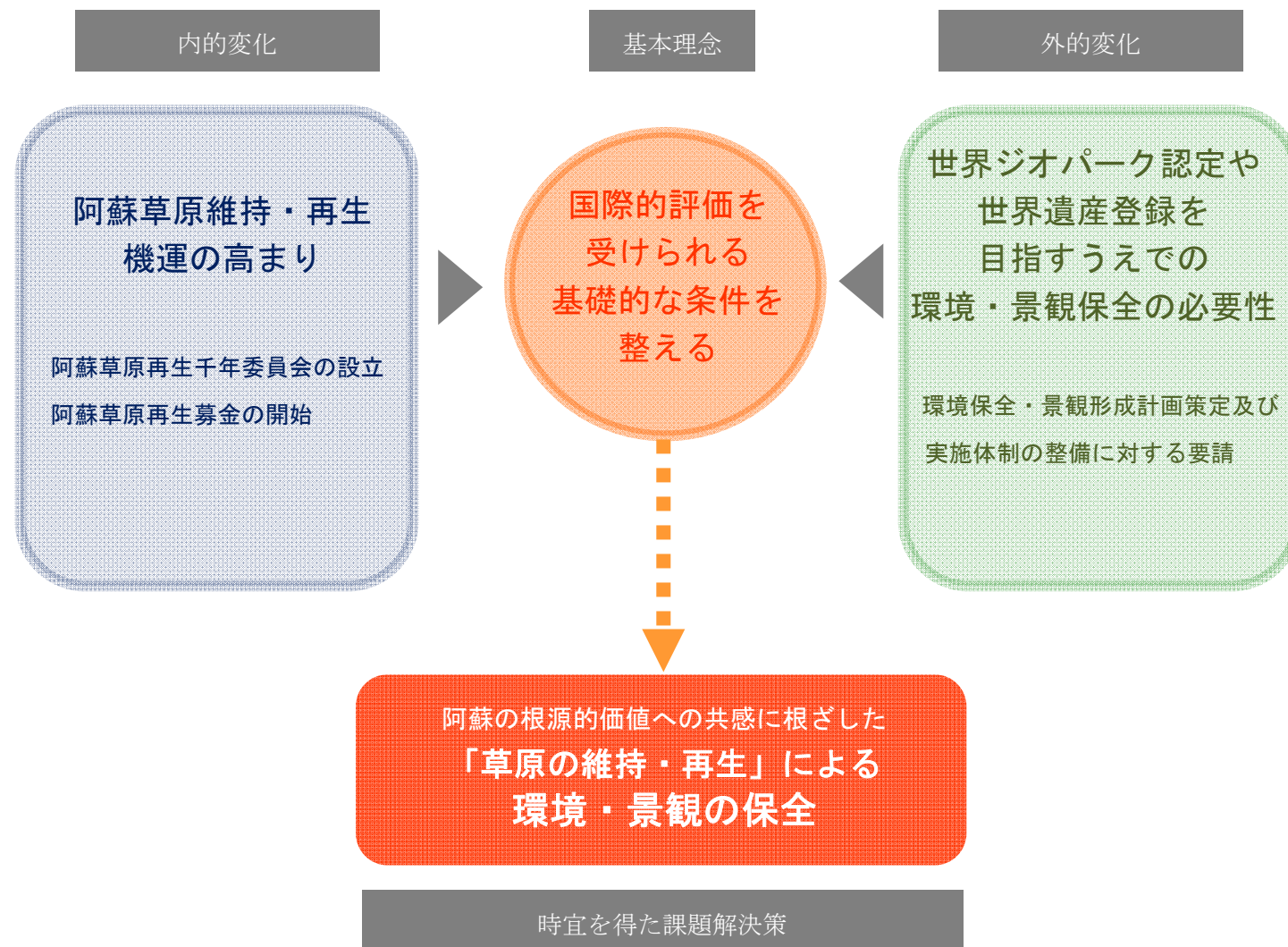
それに加えて平成 21 年の日本ジオパーク認定以降は、より一層の環境・景観保全の必要性が認識されるようになりました。

事業の基本理念：

今後、世界ジオパーク認定や世界遺産の登録を獲得するには、内外からの評価に求められる基準をクリアすることが必須条件です。

課題解決に向けて：

阿蘇の貴重な財産である「草原の維持・再生」を中心に、環境・景観保全の促進を図ります。



向こう五年間の事業を以下のように設定します。

中核事業	実施事業	主な事業内容	新規・継続・拡充	事業期間	実施場所
① 阿蘇草原維持・再生	草原再生PR事業	<ul style="list-style-type: none"> ・草原維持再生の企画立案、執行管理のための体制づくり(専任職員の配置) ・草原・あか牛PR(情報発信、イベントの開催) 	新規	H24～H28 年度	阿蘇全域
	野焼き支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・景観・観光面からの野焼き支援 ・野焼きの観光化(旅行商品等の開発等) 	新規	H24～H28 年度	阿蘇全域
	あか牛振興事業	<ul style="list-style-type: none"> ・草地活用の促進(放牧の促進、遊歩道の整備等) ・あか牛の普及・販路拡大 	新規	H24～H28 年度	阿蘇全域
② 阿蘇ジオパーク世界認定、世界文化遺産登録	阿蘇ジオパーク世界認定と事業推進	<ul style="list-style-type: none"> ・阿蘇ジオパーク推進協議会の運営・支援 ・世界ジオパークネットワーク加盟認定に向けた活動 ・阿蘇ジオパーク推進室の体制強化 ・阿蘇ジオパークに関する情報発信と普及活動 ・阿蘇ジオパークを学術的に紹介する公式ガイドブックの発行など 	継続	H24～H28 年度	阿蘇全域
	阿蘇環境デザイン策定事業	<ul style="list-style-type: none"> ・景観法に対応した景観計画策定及び景観条例の制定支援 ・歴史的・文化的地域の保全、継承活動の支援 ・阿蘇草原再生協議会観光小委員会の運営 ・阿蘇グリーンストック活動との連携 ・世界文化遺産登録に向けた活動 	継続	H24～H25 年度	阿蘇全域

内的課題：

阿蘇地域が抱えている積年の課題として、地域の基盤産業の弱体化や若年層の流出など、地域の生活基盤に影響を及ぼすものが多くあります。

圏域外からの期待：

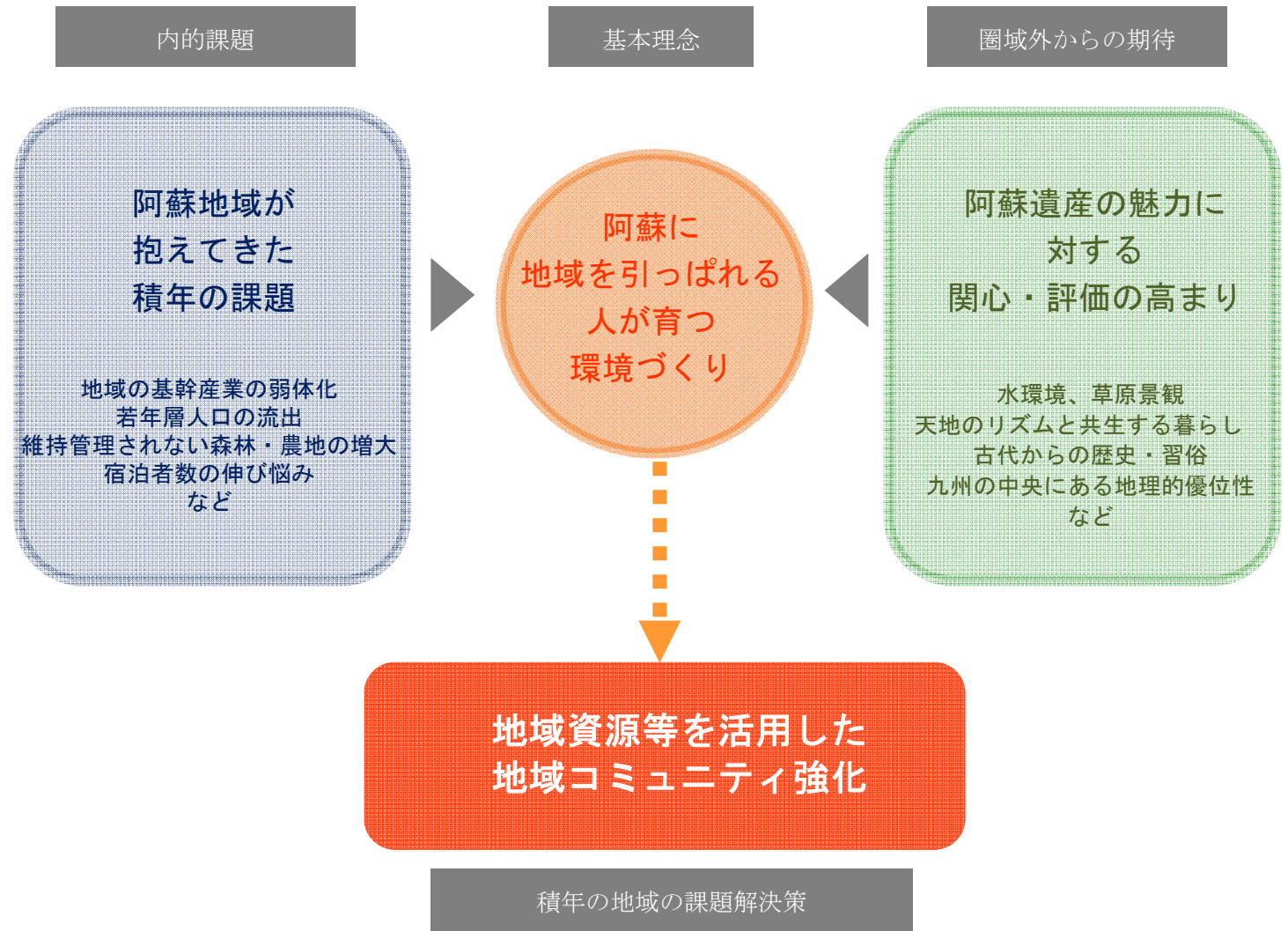
一方で、阿蘇の環境・景観等の遺産に大きな関心が寄せられています。

事業の基本理念：

こうした課題や期待に応えるためには、地域のリーダーとなる人材を育成していく必要があります。

課題解決に向けて：

地域課題解決に向けた地域づくり事業や地域資源等を活用したコミュニティビジネス等を支援することで、地域コミュニティの強化による地域力の向上を目指します。



向こう五年間の事業を以下のように設定します

中核事業	実施事業	主な事業内容	新規・継続・拡充	事業期間	実施場所
① 地域資源を活かした振興策の取組み	地域元気再生支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統行事再生に向けた取り組み支援 ・地域マップ・パンフレット作成 ・移住、定住を促進する地域の拠点づくり支援 ・地域イベントの支援 ・地域資源を活かしたコミュニティビジネスの開設等 ・空き店舗を利用した商店街の活性化 ・特産品の開発、販売促進等 	拡充	H24～H28 年度	阿蘇全域
② 地域人材育成と情報発信事業	地域人材育成及び情報発信事業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域リーダーの育成 (地域リーダー育成研修会など) ・情報発信事業 季刊誌(ASO 大陸) 年報(WAVE) HP、阿蘇ナビ、ラジオ番組、事業報告書 	継続	H24～H28 年度	阿蘇全域

2-3 (基本方針-3)

「広域連携による競争力のある観光地づくり」 事業の基本的な意義（背景と理念）

第二章 事業計画

内的課題への対応：

阿蘇地域は、これまで自然のフィールドや農村集落、商店街などの活性化に取り組み、地域の魅力を引き出しながら阿蘇カルデラツーリズムを推進してきました。

これは阿蘇地域への訪問客を観光の面だけでとらえず、地域の取組みに誘客し、経済的な波及効果をもたらすものとして取組んできました。

圏域外からの期待：

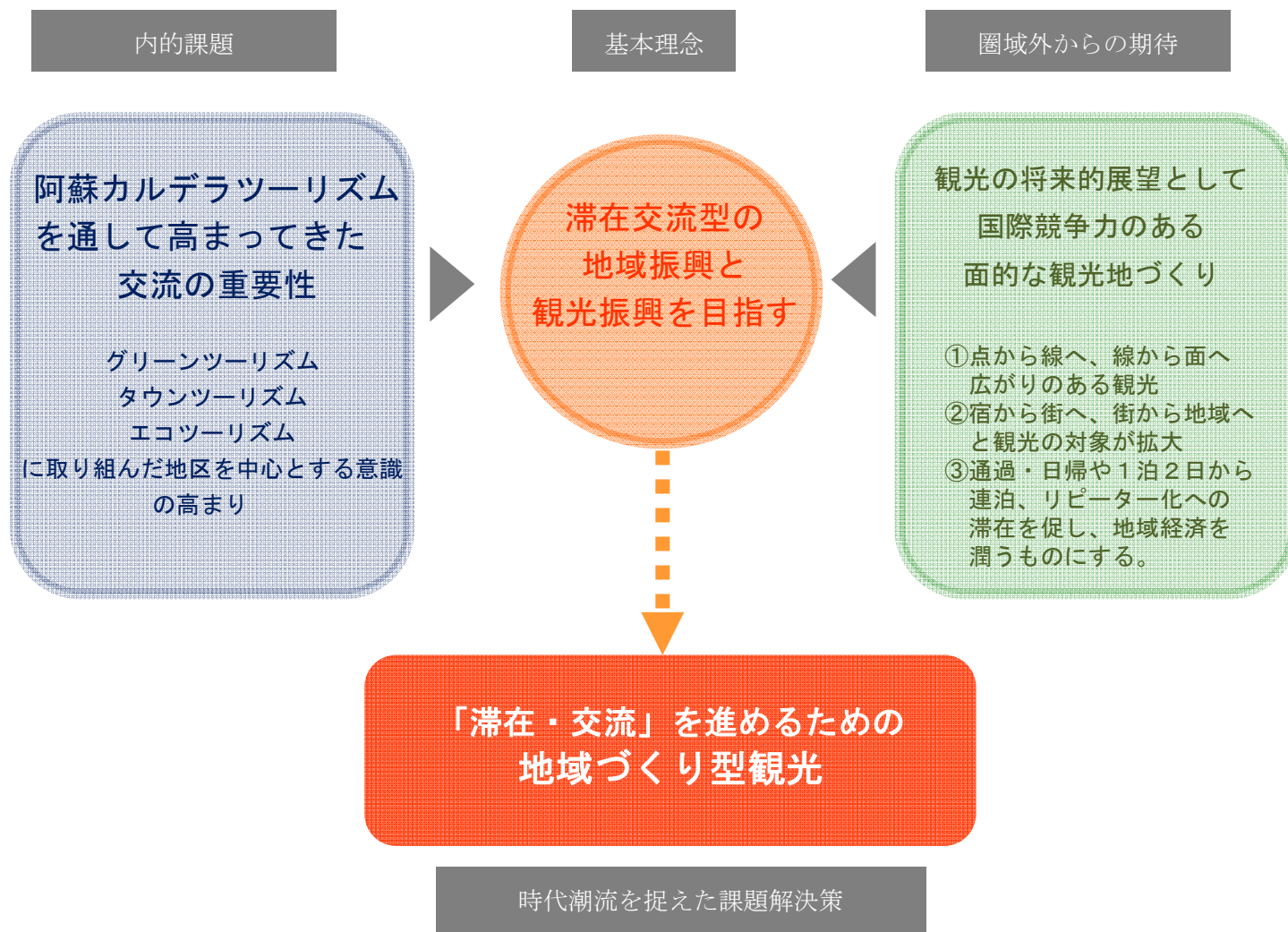
一方で、観光の将来展望として時代の潮流も地域の質の向上や滞在地域への転換が求められています。

事業の基本理念：

DCは、こうした阿蘇に寄せられている様々な関心・評価に着目し、来訪者に対して地域に密着した滞在交流型の新しい旅のかたちを提供していきます。

課題解決に向けて：

これまでの阿蘇カルデラツーリズムと公共交通機関が連携した滞在交流型の観光の仕組みを地域づくり型観光として継続し、地域振興と観光振興の融合を目指します。



向こう五年間の事業を以下のように設定します。

中核事業	実施事業	主な事業内容	新規・継続・拡充	事業期間	実施場所
① 地域づくり型観光の取組み	阿蘇カルデラツーリズムの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・コンシェルジュ育成、パビリオンの拡大とメンテナンス ・阿蘇エコツーリズム協会及び自然案内人協会の運営・支援 ・グリーンツーリズム・阿蘇カルデラツーリズムの推進 ・地域づくりワークショップの実施 ・各観光関係団体や関連施設などの連携 ・JR九州、各バス会社、南阿蘇鉄道、航空各社との連携による旅行商品の創出、レンタサイクルの運用など ・ウエルカム阿蘇くじゅう&滞在機能化大作戦(受入外国語講座など) ・阿蘇くじゅう観光圏プロモーション活動等 ・東アジアの観光拠点受入整備(案内サイン、パンフレット等の多言語化) 	継続	H24～H28 年度	阿蘇全域